

あかびらの 今と昔

今と昔のあかびらでは、どのように変化をしているのでしょうか。ここでは、昔の懐かしいイベントや風景、建物などを紹介していきます。

初めての給食



平成13年4月12日 平岸小



平成6年4月11日 赤間小



4月11日 茂尻小



4月12日 豊里小

学校でのお楽しみと言えば「給食」。先日入学した1年生も給食を楽しみにしていたのではないかと思います。

給食センターの運用が始まったのは昭和43年8月21日。初日の献立はパンとイチゴジャム、そして「カレーシチュー」でした。給食センターに残っていた平成6年4月の給食だより。この年の新入生が初めて食べたのは豚肉のしょうが焼きでした。

平成13年5月号の広報には平

岸小の新1年生の様子と一緒に、「牛乳ビンのフタに悪戦苦闘」という記事が載っていました。フタに苦労したのも懐かしい思い出です。この日は黒糖パンとミートスパゲティでした。

そして今年の新入生。茂尻小と赤間小は4月11日に焼きそば、豊里小は12日にチキンカレーで給食がスタートしました。

いつの年も、最初から子ども達の心をつかりつかまえる献立が出ていますね。



4月1日から採用になった

おおふじひろゆき

大藤寛之さん(25)。

出身: 恵庭市

趣味: 音楽鑑賞、鉄道関係

特技: 単純作業が人一倍できること

地域おこし協力隊通信

札幌大学大学院で北海道と樺太の労働の歴史について研究しました。そのなかで炭鉱の歴史に興味湧き、資料館や博物館などで文化財保護の仕事がしたいと思い赤平に応募しました。

富良野へ行く途中に通るまちとという感覚しかありませんでしたが、実際に来た赤平は炭鉱遺産や古き良き建物が残るロマンあるまちでした。

宮城県地域おこし協力隊で資料館づくりをした経験と大学時代に学芸員の資格課程で培った能力をいかして仕事をしていきたいです。

炭鉱遺産に関心をもってくださいの方に楽しんでもらうだけではなく、赤平はこれまでどんな歴史を歩んできたのかということをしつかりと伝えていきたいと思います。

なるべくはやく赤平の一員となれるよう努力しますので、どうぞよろしくお願いします。